

中間評価

対象事業No.3：四万十川流域を中心とした住民の定住を支援する道路整備



事業の目的〔四万十川流域地域の活性化を支援〕

観光等における山岳、四万十川流域、海岸地域の交流の拡大と、それぞれの地域の林産・農産・海産材の流通の円滑化を支援するため、幹線道路やそれにつながる補助幹線、毛細血管となる市町村道の改良を行うとともに、既存道路の有効利用を図るための修繕等を行う。
最後の清流と呼ばれる四万十川、流域には沢山の自然が残っている。ほとんどの道路が川沿いの集落を結びながら川と並行して走っており、曲がりくねって狭いのが現状である。すれ違いが困難な狭い道路に観光客は困惑し、移動に時間を要している。また、通学児童は交通事故の危険と隣り合わせ！車の運転操作を誤った事故も多い。そのため、地域から安全で走りやすい道路を望む声が非常に強い。

【整備前の課題(県民ニーズ)】

自然を満喫する時間の増加
地域内産品の流通エリアの拡大
地域資源の有効活用による
住民の活性化と定住

移動時間の短縮 「ゆとり時間」の創出

指標算定の考え方

道路を利用する人が得られる「ゆとり時間」
ゆとり時間 = (短縮時間 × 交通量 × 乗車人数) / 恩恵人口
短縮時間：整備による移動時間の短縮
交通量：整備区間の自動車交通量 (H11センサス)

【効果その1】 自然を満喫する時間の増加

幹線となる県道窪川船戸線(久万秋、岩土)、県道窪川中土佐線(吉野)及び町道吉野線(吉野)の整備が進み、パッケージ全体で移動時間が短縮されることにより、「日本最後の清流」と呼ばれる四万十川で自然を満喫する時間が増加している。(四万十町床鍋R56～津野町船戸R197:40分 32分 8分短縮)

自然を満喫する！



地域資源を活用した施設の利用状況

所在地	名称	H16(人)	H17(人)	伸び率(%)
中土佐町	天満宮前キャンプ場	1,506	1,500	99.6%

四万十川：天満宮前キャンプ場(中土佐町大野見)では、毎年1,500人程度の人が自然を満喫する。



写真1：県道大方大正線(四万十町打井川)

四万十川沿いの道路は未改良区間が多く残り、通学児童も事故の危険と隣り合わせ



写真2：県道中平栲原線(栲原町中平)

道路がせまいため、運転操作を誤った事故も多い。

【事例1】
町道吉野線
(中土佐町大野見吉野)
1車線 2車線改良により、観光客及び地域住民が安全で走りやすい道路を整備。



至大野見支所



至大野見支所

中間評価

対象事業No.3：四万十川流域を中心とした住民の定住を支援する道路整備

地域資源を活用した施設の利用状況

所在地	名称	H16(人)	H17(人)	伸び率(%)
(キャンプ場) 小計		27,616	27,201	98.5%
梶原町	太郎川公園	16,655	16,303	97.9%
中土佐町	天満宮前キャンプ場	1,506	1,500	99.6%
四万十町	リバーパーク轟キャンプ場	604	583	96.5%
	ウェル花夢	6,138	6,103	99.4%
	ふるさと交流センター	1,650	1,712	103.8%
	三島キャンプ場	1,063	1,000	94.1%
(温泉) 小計		139,018	147,194	105.9%
梶原町	雲の上の温泉	56,948	68,649	120.5%
中土佐町	四万十源流の家	15,538	15,191	97.8%
四万十町	松葉川温泉	66,532	63,354	95.2%
合計		166,634	174,395	104.7%

【効果その2】 地域資源の有効活用による住民の活性化と定住

四万十川源流域にあたる四国カルストから国道439号分岐(梶原町中平)間には当パッケージ内の6工区(笹ヶ峠文丸線(坪野田)、城川梶原線(東向、宮野々)、中平梶原線(仲久保、初瀬、大向))をセツシ整備を進めている。整備によるそれぞれの事業効果を発現することにより、この区間の移動時間が130分→110分に短縮された。移動時間の短縮による“ゆとり”が生まれることにより、地域資源を活用した滞在型のイベント(新茶づくり体験、田植え体験等)が開催されるようになった。これには、訪れた人々に田舎の良さを実体験により感じて理解して貰い、交流から定住へとつなげるねらいがある。また、最近では、キャンプ場、温泉などの他に農家民泊も増加している。

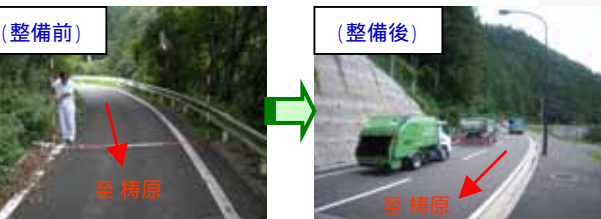
【事例2】 県道城川梶原線(梶原町東向)



【事例3】 県道城川梶原線(梶原町宮野々)



【事例4】 県道中平梶原線(梶原町仲久保)



道路整備による地域資源を生かした活性化を！

今後の課題など

- ・今後30年間の発生確率が50%と言われる南海地震等に備え、幹線道路とそれにつながる補助幹線、毛細血管となる市町村道の改良を進め、避難路ネットワークを地域、市町村と協働して構築する。
- ・H17末時の中間目標は達成したが、各課題のカバー区域の更なる拡大を目指し、自動車及び緊急車輛での安心で安全な移動が可能となるよう道路整備を推進。
- ・「ゆとり時間」の創出により、四万十川流域に点在する観光施設や宿泊施設を利用した、観光客等の交流滞在時間の増加を目指す。



● キャンプ場
● 温泉
● 市町村(H18・4現在)
● 市町村支所(旧役場)
— 事業箇所

区域内人口
 H13 69,610人 H18 67,448人 2,162人減
急激な過疎が進んでいる。

新茶づくり体験(写真:四万十町) 他梶原町、津野町においても実施中



田植え体験(写真:四万十町“高知FD一俵入魂”) 他パッケージ内全地域(梶原町、津野町、中土佐町)においても実施中



四万十川流域市町村では、地域の資源を活用した様々な地域活性化への取り組みがされている。

しかし、中山間の現実是非常に厳しい。
急激に進む高齢化。
 鉄道など公共機関がないため、道路に頼るしかない状況。
 多くの道路が、行き違いが困難な幅員狭小な道路で、緊急活動の支障や、高齢者及び旅行者泣かせの道路となっている。



達成度の報告

H16当初現況値	0(時間/年)
H17末中間目標値	8(時間/年)
H17末中間実績値	8(時間/年)